

# 15地区サッカー協会

(一社)札幌地区／函館地区／小樽地区  
空知地区／旭川地区／釧路地区  
(一社)十勝地区／室蘭地区／苫小牧地区  
北空知地区／千歳地区／道北地区  
オホーツク地区／根室地区／宗谷地区

【札幌地区】

## 一般社団法人札幌地区サッカー協会 創立90周年

フットボール100周年に向けたフットボール環境の土台づくり ～Road to 2033～



一般社団法人札幌地区サッカー協会 専務理事 今枝 映人

2021年、2022年の両シーズンにつきましては、皆様の理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。2022シーズンは、新型コロナウイルスへの感染防止対策を継続しながら『安心・安全にフットボールがプレーできる環境づくり』を第一と考え、「感染防止対策」「情報発信」を重点施策として各種別、委員会の事業を推進してきました。2022年度登録(サッカー)の最終状況は、団体登録数466チーム、選手登録数12,955名と、パンデミック前の2019年の登録者数に比べ32チーム、選手登録数では1,781名の減少となりました。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症とな

り、2023シーズンは感染症への対策のみならず、突発的な事故や災害についても対応力を高めるなど、さらに「安心・安全にフットボールを楽しめる環境づくり」を推進して参ります。また、創立90周年となる今シーズンは「札幌地区フットボール100周年に向けた環境の土台づくり～Road to 2033～」とスローガンを掲げ10年後の札幌地区のフットボール環境をより良い姿を具体化する一年として参ります。今年度も引き続き札幌地区のフットボール環境の向上のため、皆様の理解とご協力を何卒宜しくお願い致します。

### 2023年度 運営方針【運営の重点】

- 1 アフターコロナに対応したフットボール環境づくりの継続
  - (1) 安心安全な事業の開催(感染症対策を含む緊急時を想定した運営体制づくり)
  - (2) 情報発信(大会や研修会、講習会、イベント等をHPやSNSで情報発信)
- 2 普及拡大事業
  - (1) 重点事業(キッズ大集合・女子フットボールイベント・ゆめカップ・プロチームとの連携事業)
  - (2) 女子チーム・シニア新規チームの創出
  - (3) 年間を通じてフットボールを楽しめる環境づくり(サッカー・フットサル)
- 3 技術力向上事業
  - (1) クラブ・マッチオフィサーの養成研修会の実施(ウェルフェアオフィサー制度の活用)
  - (2) トレセン活動・指導者養成・審判員養成の充実
- 4 協会組織づくり
  - (1) 事務局業務の構造改革(常勤理事の配置、会計業務の効率化)
  - (2) 理事会、事務局、各委員会の活性化(働き方改革、後継者育成、新人登用)
  - (3) 定款の見直し(女性理事・外部理事・定年制の検討)
  - (4) 規定集の編纂(HKFA 規定活用の検討)
  - (5) マーケティング(自立運営の戦略検討)

## 【函館地区】

## 地区の現状

函館地区サッカー協会 理事長 吉田 昌一

函館地区サッカー協会は、渡島、檜山までを管轄としています。令和5年1月の登録チーム数は121チーム、登録選手数2,605名となり、昨年より13チーム、270名の減となっています。函館市の人口減少に伴い毎年減少傾向となっています。昨年度までのコロナによる制限も解除され、今年度は活動の復活となる年と捉えています。活動の拠点は函館フットボールパーク、北斗市運動公園フットボ

ール場、七飯町トルナーレ、鹿部町山村広場多目的グラウンドが主となり社会人からシニアまでの利用となります。地区協会の事業活動推進には函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・八雲町他、近郊市町村の甚大なご協力のもと、令和5年度の活動を行っていきます。今後とも、地区協会発展のために、サッカーに関わる皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 【小樽地区】

## 小樽地区サッカー協会の現状と今後の展望



小樽地区サッカー協会 理事長 柴田 靖士

小樽地区の各市町村では人口減が急速に進んでいる。特に子どもたちの人口減が加速しているため、団体種目の競技はチーム編成できる人数が確保できず、居住している地域で好きなスポーツができない小中学生が増加している。そうした中、今年度より小樽市では部活動の「拠点化」を進め、将来的な地域移行を視野に入れた部活動編成が行われている。その結果、サッカー部が通学している学校にない生徒も拠点の学校のサッカー部に所属し活動できるようになった。しかし、その他の町村では、広域にわたる合同チーム編成で何とかサッカーができる環境を繋いでいる場面もある。サッカーを含めた各競技団体が連携し、グラスルーツからシニアまでスポーツに親しめる環境づくりが急務となっている。

今までコロナ禍により制限されていたチームの活動が通常を取り戻しつつある。その中、北海道大会で上位に進むチームや全国大会への切符を得たチームも出ており、今後の更なる活躍が期待されている。

審判委員会では、Web形式と集合型のハイブリッド研修を企画し、審判員や審判指導者が参加しやすい環境を整え研修会を行った。その中で、若手の審判員や、高校生のユース審判員も参加をした研修会を行うことができ実り多いものとなった。ユース審判員については、登録数が200名を超え地区の審判員総数の半数以上となっている。その中から上級を目指すユース審判員も出てきており、レフェリーアカデミーにおいて早期に若手3級審判員を育成してい

る。

技術委員会では、トレセン活動が徐々に通常に戻り定期的な活動を行っている。その結果、ブロックトレセンなどで中心となって活動できる選手も輩出している。また、B級以上の上級ライセンス取得に挑戦する指導者や、D級講習会を受講する4種チーム指導者も増えてきている。今後、全国や北海道で活躍する選手の育成・強化、そして若手指導者の発掘・養成を期待したい。

キッズ委員会では、キッズフェスティバルやフレンドリーグを行い、普段サッカーに触れていない子どもたちも含め多くの参加者が集まる場をつくることができた。また、幼稚園や保育園への巡回指導を5回行い、笑顔溢れる子どもたちからエネルギーをもらい実りある活動を行うことができた。小樽地区出身選手では、菅大輝選手（北海道コンサドーレ札幌）、山谷瑠香選手（アルビレックス新潟レディース）、池高暢希選手（ギラヴァンツ北九州）が現在、国内最高峰の舞台で活躍している。更なる躍進を期待したい。

最後に、幼児から大人までサッカーを楽しめる環境づくりや、現存の施設の有効活用、グラスルーツからのサッカーファミリー拡大、サッカー・フットサルのリーグ戦環境の向上、各種別委員会や審判・技術委員会との協調に力を入れ取り組んでいきたい。また、創立90周年を迎える今年、その後の10年を見据え、協会一丸となって更に前進できるよう取り組んでいきたい。

## 【空知地区】

## 空知地区の現状について～コロナ禍と少子化の中で～



空知地区サッカー協会 理事長 磯辺 正道

空知サッカー協会は、昭和 24 年に発足し長い歴史を積み重ねてきた礎があります。これまで継続されて来た諸先輩方の積年や誇りに、あらためて敬意を表し感謝いたします。2022 年度役員改選を迎え、各種委員長をはじめ理事による理事会や活動運営は北海道サッカー協会とのさらなる連携強化を図りつつ、計画した多くの事業が執行されているところであります。

新型コロナウイルス感染症拡大により、医療提供体制も含め社会・経済活動に甚大な影響を及ぼす事態となって、日常生活の自由を奪われサッカー活動も制限を余儀なくされて早くも 3 年の年月が過ぎました。5 月より新型インフルエンザ等感染症(2 類感染症相当)に分類されている新型コロナウイルス感染症を 5 類感染症に引き下げることになり、平時に戻しウィズコロナを具現化する活発なサッカー活動が加速することを願っております。

今後、持続可能な組織を立ち上げ前向きで先進的な取り組みをご紹介します。少子化問題が加速する中、生徒数の激減により選手の減少や指導者の減少が顕著となっています。岩見沢市内中学校全 9 校の部活動を拠点校に集約する「拠点校方式」によるサッカー新チーム「岩見沢 FC」が誕生しました。これらは岩見沢市 9 中学校、岩見沢市

教育委員会、岩見沢教育大学サッカー部、岩見沢市サッカー協会等が連携して実現に至りました。現在 64 名が入団、競技力向上やサッカーを楽しむ活動をベースにサッカーチームとしてのフィロソフィー(哲学)を鑑みた取り組みと言えます。

空知サッカー協会として大変名誉な結果をご報告いたします。空知管内唯一の中学女子サッカーチーム岩見沢 FC ルファヴェニールは、高円宮妃杯 JFA 第 27 回全日本 U-15 女子サッカー選手権大会北海道大会で準優勝、北海道第 2 代表として発足 3 年目にして、初めて全国大会への切符を手に入れました。北海道教育大学岩見沢校サッカー部は、2022 年度「北海道学生リーグ優勝」「総理大臣杯優勝」と道内 2 冠、全国大会では「インカレベスト 16」「総理大臣杯ベスト 8」と歴史に残る成績を残しております。BTOP 北海道は、2022 年度リーグ初優勝、第 58 回全国社会人サッカー選手権大会では北海道勢 24 年ぶりの決勝進出を果たし準優勝に輝いております。

終わりに、サッカーブームの終焉を地区から盛り上げて空前のサッカーブーム再来を夢見しております。

【旭川地区】

## 旭川地区サッカー協会の現状と課題



旭川地区サッカー協会 理事長 對馬 紀一

2023年4月1日。日本最高峰の高校年代の大会であるプレミアリーグにおいて旭川実業が昨年のEAST準優勝チームである横浜F・マリノスユースを破り、11年前には果たすことができなかった1勝を上げることができたことは、記憶に新しいことと思います。2022年1月には、JFA全日本U-15フットサル選手権大会において、北海道コンサドーレ旭川が初優勝を果たし、旭川地区だけでなく、北海道全体に勇気を与えてくれました。女子では、2022年12月に旭川実業が全日本高等学校女子サッカー選手権大会に初出場を果たすなど新たな光を見せてくれました。多くのチームが全国の舞台で活躍されることに、チーム関係者の皆様にあらためて敬意を表したいと思います。

2021年・2022年は、コロナ禍による様々な制限のある中で活動になりました。2020年に全国大会の出場権を得た旭川シニアFC60の選手の皆さんは、2年間の大会延期に対しても晴れ舞台での活躍を目指し辛抱強く練習に取り組んできましたが、全国大会中止の憂き目に遭ってしまいました。他にも、「練習ができない」「大会中止」「観戦制限がある」などサッカーファミリーにとっては、多くの苦難に耐えねばなりませんでした。

しかし、2023年は、新型コロナウイルス感染症が5類感

染症へと移行し、多くの制限が緩和されました。旭川地区においても、2019年の訪韓以降延期となっていた日韓親善少年サッカー交流事業を再開する見込みが立ち、草の根サッカー交流が継続できることを大変嬉しく思っているところです。現在、旭川実業が参加している高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ 2023。そして、令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会と全国の強豪が集う楽しみな大会が開催されます。過去3年間で失われたものを取り戻し、以前よりさらに発展した協会を目指しながら、サッカーファミリー一丸となって尽力していきたいと思っています。

施設面では、2022年8月に忠和公園多目的広場横に倉庫を設置し、施設の利便性を格段に向上させることができました。10月には、2年間中止を余儀なくされていた天然芝会場の整備ボランティアに、730名の参加を得て再開することができました。それでもまだ、「花咲球技場の改修」「東光スポーツ公園におけるアリーナの建設」などまだまだ解決しなければならないものが多く存在します。これからも、サッカーを楽しくプレーするための環境整備のためにできることを一つ一つ取り組んでいきたいと思っています。

## 【釧路地区】

## 釧路地区協会の現状と今後の展望



釧路地区サッカー協会 理事長 八城 雅彦

2020年4月上旬の地区協会総会において、新会長に三森敏司氏を迎え、3年が経ちます。2022・2023年度、ともに4月上旬に集合形式で定期総会を実施することができました。「ウイズコロナ」から「ポストコロナ」に変遷する中で、大会の運営にも徐々に慣れてきた1年でした。

一種は、社会人サッカー連盟が市内リーグ、各種大会を積極的に運営しています。近年はコロナ禍や不況等の影響もありチーム数がやや減少傾向にあり、ピーク時には50チーム程度であったことを鑑みると、30～40代のシニア世代の発掘が肝要かと思われます。

二種高校世代は、従来の春季フェスティバルを高体連のシード大会へと改め、平成20年度から開始したU-18のリーグ戦もスタッフの努力により試合数が増え、選手諸君の励みとなっています。

三種中学年代は、平成20年度から開始した前期、後期の長期リーグ戦を導入し、実力が拮抗した試合が展開されています。中体連のトーナメント戦、フットサル大会(U-15・U-14・U-13)などの大会と合わせ、軌道に乗っています。

四種少年世代は、短いサッカーシーズンに多くの大会が開

催されていますが、運営に関わる総務部、審判部、技術部の各委員会を設け、スムーズな大会運営、各指導者の協力体制作り、審判技術の向上、指導技術の向上が図られています。また、現在進行中の少子化対策として、キッズ年代の講習会等が本格的にスタートしています。

女子は底辺拡大のため小学女子トレセンの活動を行い、小学生から大人までサッカーを楽しめる環境となっており、JFLのチームで活躍している選手も排出しております。技術関係も管内からJリーガーを排出することを目標に熱心なトレセン活動を展開しています。

2016年度に作成した釧路地区サッカー協会マスタープラン2025の目標は、

1. 釧路にサッカー専用芝グラウンドをつくる。
2. サッカーファミリーを1万人にする。
3. 釧路からプロ選手を育てる。

となっています。地区協会の法人化や専用事務所の開設、指導者の育成・拡充など課題山積ではありますが、一度初心に戻って検討を加える所存でおります。

【十勝地区】

## これからに向けて



一般社団法人十勝地区サッカー協会 専務理事 大橋 穰

平素より本協会の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

世の中を騒がせていた新型コロナウイルスも第5類に移行し、3年振りに制限がない中で、大会が開催されることとなり、選手役員はもちろん、声を出して応援ができる観客の皆様も、以前のように普通にサッカーができる環境が戻ってきたことを喜ばれていると思います。

5月上旬から各カテゴリーにおいてリーグ戦や各種大会が始まりましたが、コロナへの特効薬があるわけではないので、大会の運営にあたっては引き続き気を緩めることなく取り組んでいかなければならないと思われまます。

今年度は本協会が設立60周年の年となります。6月末に

は高体連全国大会(2種・女子)、9月には全国クラブチームサッカー選手権大会(1種)、そして12月にはフットサル日本代表の国際試合の開催が予定されております。このようにいろいろな大会を誘致できるようになったのは、本協会を設立され、今日まで発展にご尽力された諸先輩方のおかげであり、これから先も協会がますます発展できるように努力を惜しまぬようにしていきたいと思ひます。

最後になりましたが、関係各位におかれましては、フットボールに関わるすべての方々への感謝を忘れずに、今シーズンもサッカーに取り組んでいただき、楽しさや厳しさを広く地域に発信することで、サッカーファミリーの輪がさらに広がっていくことに期待します。



## 【室蘭地区】

## 室蘭地区の現状と展望



室蘭地区サッカー協会 理事長 安藤 亮一

令和4年度の室蘭地区のサッカーとフットサルの登録数は、69チーム(±0)、選手約1,649人(-144)でした。一昨年から新型コロナウイルスによる影響はありましたが、昨年に比べると、多くの事業を実施することができました。地区の登録数は減少傾向にありますが、そうした状況にあっても、1種～4種・女子・シニア・FSの全カテゴリーで、全道大会優勝4大会・準優勝6大会・第3位4大会の活躍があり、特に、女子チームが大きな成果を発揮しました。長年にわたって室蘭地区で培われてきた育成と強化の賜であろうと、各委員会・各チームのご努力に敬意を表します。

さて、前年度は、一昨年度の「協会創立90周年」から、千葉新会長の下、新たな第一歩を踏み出しました。「活動推進方針」の中に、「持続可能かつ実効的・機能的な組織の見直し」を掲げ、会議体や組織・役員体制の見直しを行い、委員長会議では「各委員会の現状と課題」を毎回取り上げ、交流を図ってきました。その中で、浮き彫りになった現状・課題の多くは、「チーム・選手の減少」「スタッフ(審判員)不足」「試合会場の確保」などでした。また、競技志向の選手

が減少していることや、サッカーに対する魅力の減退という指摘も上げられました。「楽しむサッカー」や「上を目指すサッカー」など、さまざまなサッカー愛好者の多様なニーズに応え、サッカーに魅力が感じられる取り組みと工夫と求められています。今後、協会としての中長期的なビジョンを策定し、サッカーに魅力を感じ、「いつでも、どこでも、だれもができる環境づくり」を進めていきたいと考えています。

地区を取り巻く現状としては、今年度限りで入江多目的Gが閉鎖され、4月から祝津に新人工芝グラウンド「リーフラスフットボールパーク」がオープンしました。天然芝グラウンド2面がなくなることは大きな損失ですが、照明付きの人工芝グラウンドという利点を活かして、その活用と利便性の向上を図っていききたいと思います。来年度には全国インターハイ女子サッカー競技が当地区で開催されます。ハイレベルな試合を身近に観戦できる機会となります。大会をきっかけとして、室蘭地区のサッカー界がさらに盛り上がっていくことを期待したいと思っています。

【苫小牧地区】

### 苫小牧地区サッカー協会の現状と今後の展望



苫小牧地区サッカー協会理事長 岩田 薫

新型コロナウイルス感染症の影響は3年間にわたり事業の中止や延期、さらには感染防止による事業の制限などサッカーに係わる全ての皆さんに厳しい状況が強いられておりました。この3年間、多くの皆様のご支援とご協力をいただき感謝とお礼を申し上げます。

現在は事業についても通常を取り戻しつつ運営しておりますが3年間で得た教訓を大切に、今後とも事業の推進をして参りたいと思います。

苫小牧地区内では、2021年秋に浦河町「うらかわ優駿ビレッジAERU(アエル)」に人工芝競技場が供用開始となりました。さらに、苫小牧では道央道苫小牧中央インターが開設され、北海道内から苫小牧市緑ヶ丘サッカー場への交通アクセスが良くなったことから利用者が増えており

ます。特に春先や初冬にかけて全道からの利用者が激増しております。こうした環境を生かし、全道大会や合宿の誘致など自治体と連携し取り組んで参ります。

全道全国におけるチーム・選手登録数は減少傾向にあり、当地区でも課題となっております。今後歯止めをかけるため、キッズからシニアさらには女子サッカーや障がい者サッカーなどサッカーファミリー拡大のため宣伝・普及活動を強化して参ります。

今後ともスポーツの楽しさを全ての皆さんと共有し、サッカーを通じて心身共に健康であることを目指して取り組んで参ります。

今後とも当協会へのご指導いただきますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



2022 年度フットボールデー



2022 年度全道シニア 70 サッカーオープン大会優勝報告

## 【北空知地区】

## 活動の成果と、今後の課題



北空知地区サッカー協会 理事長 鈴木 敏之

今年度も感染対策を講じながら、各カテゴリーが工夫を凝らし、サッカーができる環境をつくろうと活動してきました。今年度は中止となる事業はありませんでした。各カテゴリーの活動と、今後の課題を紹介します。

1種の地区リーグは参加チームが安定せず、同じ対戦カードの試合が多く、選手登録、チーム登録の減少が今後の課題です。フットサルでは、道北ブロックリーグで at second が優勝、el.bien が第3位と健闘し、at second はブロック決勝大会で第3位の好成績を残しました。

2種の道央ブロックリーグでは、滝川西高校が私立の有力校2校に次ぐ第3位と健闘し、また同校は高体連全道や選手権全道大会においても強豪校相手にも善戦しました。8月には3回目となる北空知サッカーフェスティバルを開催し、4日間で延べ39チームが参加。選手権前の良き実戦経験となり、参加校からも好評でした。ユース審判員は、高校生2名が2級を取得しています。女子2級の審判員は、高体連全道大会の決勝戦でアシスタントレフリーを務め、男子2級の審判員は、鹿児島で開催されたJFA第46回全日本U-12サッカー選手権大会にU-18審判員の北海道代表として参加し、準決勝の主審を務めるなど活躍しました。両

氏の姿に刺激を受けて審判員を目指す後輩も生まれており、良い循環ができつつあります。

3種のブロックカブスリーグ1部はコロナによる学校閉鎖などが影響し、順位に影響はなかったものの数試合消化できずに終えてしまいました。地区のフットサルの大会では拮抗した試合が見られます。2種同様、3種もチーム数が年々減少し、合同チーム含め5チームしかなく(2種は2チーム)、部活動の地域移行の動きも合わせ、今後のチーム数維持が課題として挙がっています。

4種は登録チームが9チームあります。各種大会では欠場になるチームがありました。また、リーグ戦が当初予定していた試合数を消化することができませんでした。8月には本地区主管で第10回熊谷・高瀬杯を実施し交流部門を含め16チームが参加し、大きな事故などもなく笑顔で大会を終えることができました。

最後に、3月には3年ぶりに全道シニアフットサルオープン大会を本地区主催で開催しました。まだまだ油断はできないものの、徐々にこれまでの光景を取り戻していることを実感した一年でした。

【千歳地区】

## 地区の現状と今後の展望



千歳地区サッカー協会 理事長 北国 浩

当地区は、千歳市・恵庭市・北広島市の3市各サッカー協会  
で構成されており、道内の都市では数少ない人口が増  
加している地域であります。しかしながら、人口増とは対照  
的に選手登録・チーム数は減少を続けており、少子化等の  
影響なのか？特に4種年代の選手登録数は、平成24年  
度をピークに減少の一途をたどっております。さらに、令和  
2年から感染が拡大しました新型コロナウイルスの影響を  
受け、令和4年度の選手登録数は 1364名、チーム数は4  
4チームとなり、前年度と比較しますと、60名、3チームの  
減少となっている。このような状況で中でも、令和2年度か  
ら北海道文教大附属高等学校(旧北海道文教大明清高等  
学校)が当地区所属となり、男女共にチーム登録され、人  
工芝グラウンドも完成したことから、当地区内の活性化が大

いに期待されております。今後は、U15女子チームを立ち  
上げ、キッズ年代から社会人まで地区内で活躍出来るよう  
選手の育成を積極的に進めていきたいと考えております。  
次にこれからの課題としましては、やはり選手登録数の増  
加対策が挙げられます。誰もがサッカーの楽しさに触れら  
れる環境づくりの構築に向けて、各自治体や関係機関との  
連携による施設整備を進めるとともに、危機感を持って、  
地区協会と各種年代指導者の力を結集し、キッズ・4 種年  
代への巡回指導やフットサルも含めたスクールの開催を通  
じてサッカーファミリー拡大を目指します。また、近年続い  
ている1種年代での登録チーム数減少の原因を追求し、自  
衛隊チームの復活も含め、社会人・大学リーグを活性化さ  
せて参りたいと思います。

## 【道北地区】

## 道北地区の現状と課題



道北地区サッカー協会 理事長 由井 敏博

道北地区サッカー協会は昭和50年の設立から 48 年目を迎え、道北地域では誰もが「サッカーを楽しむ」ことが出来るようにいっそうの取り組み強化と連携を図りながら頑張っています。

道北地区サッカー協会は設立当初から選手の育成とサッカー人口の拡大を目指し活動してきました。道北地区には 4 種を初め中学、高校にサッカー部があり、社会人チームも存続していましたが、近年急激に進む道北地域の人口減少、高齢化の影響や他地域への進学、就職に伴い地域を離れる若者が多い中でも何とか選手を集めながら社会人チームの維持を行っているところです。

子どもたちの減少に伴い、2種の高校部活存続問題や3種チームの減少、4種でも同学年が少なく試合ができないなど、厳しい状況に直面しています。サッカーが出来る環境を提供できるように地域を越えての合同チームやチームの枠を超えて合同練習による地域連携などに取り組んでいます。

一方では「道北キッズフェスティバル」では小さい時から体を動かす事の楽しさ、ボールを使ってのサッカーの面白さを感じて貰うために様々なアイデアを取り入れると共に保護者の方々にも一緒に参加してもらうことでより楽しさと

サッカーに対する理解を深めるように取り組んでいるところです。又、「道北シニアリーグ」によりサッカーを続けたい人やこれから始める人達の間を確保することで少しでもサッカーファミリー拡大に努めています。

各地域での取り組み活動としては 30 回以上を数える「サフオークランド土別サッカー大会」や名寄雪まつりで行う「雪上サッカー」「サッカー教室」など底辺拡大など多くの人たちにサッカーの楽しさを共有してもらい取り組みを行っています。指導者の育成としてはC級、B級取得推進に伴い多くの指導者が増えている反面、審判員は増えない状況であり、今後の課題として委員長を中心に協会としてもしっかりとバックアップできる体制を構築し、審判員の普及に努めていきます。

中学校部活道地域移行に伴う課題もありますが各教育委員会、学校、地元自治体と協力しながら子供達が安心してサッカーに取り組める環境の整備を図っていききたいと思います。

今後も地域は勿論、全道、全国のサッカーファミリーと共に地域のサッカー発展に全力で取り組んでいきたいと思えます。



道北地区でのファミリー拡大を図るためにキッズフェス開催(秋)



普及活動として2月にサッカー教室in土別を開催。

【オホーツク地区】

## オホーツク地区サッカー協会の現状と展望



オホーツク地区サッカー協会 理事長 中田 孝一

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更されたことに伴い、コロナ前に実施していた活動ができること誠に嬉しく思います。オホーツク地区では、2016年より「リーグ文化の醸成」、「女子選手数の倍増」、「施設の充実」、「みんなつながっている」を重点課題とし、役員一丸となって取り組んでおります。施設の充実では、2017年に遠軽町に管内初の人工芝のサッカーラグビー場2面が完成、2020年は美幌町に室内人工芝アリーナが完成し一年を通してサッカーフットサルの大会や練習に利用されています。また、2023年には、紋別市で大人用サッカー場の広さを天然芝から

人工芝に張り替える事業が行われサッカーを行う環境が少しずつ整備されてきています。

また、女子選手数倍増には至っていませんが、ナショナルトレセン女子 U14 参加メンバーに選出された選手がでたことや、女子チームが全道大会で上位入賞を果たしたりと確実に取り組みの成果が表れています。

サッカーに限らずどの競技にも共通します少子化による競技人口の減少、当協会のサッカー人口も減少しています。今後はキッズ年代にサッカーの楽しさを伝えたく幼稚園等への巡回指導やキッズ教室を開催しファミリー拡大などの目標達成に向け進めていきたいと考えております。

## 【根室地区】

## 根室地区協会の現状と今後の展望



根室地区サッカー協会 理事長 館下 裕典

当地区の現状といたしましては、少子化による選手数の減少並びに登録チーム数の減少が上げられます。これはどの地区においても言えることだと思いますが、その様な中、少しでもその歯止めをすべくファミリー拡大に力をいれているところです。具体的には、キッズ年代への積極的なアプローチ、女子の選手層の拡大、シニア年代の拡大などです。また、各種別・委員会においてもコロナ禍の中、出来ることを最大限に行っているところです。

さて、2022年度のなんといっても嬉しかったことは「全道フットサル選手権大会2023 U-12 の部」において根室北斗が優勝したことです。当地区協会においては「北海道ブロック大会」での優勝はありましたが、全道大会における優勝はどの種別においてもはじめてのことです。選手の皆さんはもとより、指導者スタッフそして日頃より選手

のサポーターである父母やすべての関係者に対し心よりお祝いを申し上げるとともに、感謝いたします。この優勝は当地区協会においても、管内の他チーム・スタッフに大きな刺激と「やればできる」という礎を作ってくれたと思います。今年度は新型コロナウイルスも5類に移行されアフターコロナの時代に入りました。各チームの選手、指導スタッフ、そして審判活動、トレセン活動など、より一層の活躍を期待するところです。また7月には「北海道シニア8サッカーツアーオープン大会」も実施されます。久しぶりの全道大会主管ですが、来ていただける皆さんに精一杯のおもてなしと大会運営に尽力したいと思います。

末筆になりますが、すべてのサッカーファミリーが笑顔で活動できる年であることを祈念するところです。

【宗谷地区】

## これからの宗谷地区



宗谷地区サッカー協会 会長 山内 秀樹

2020年から拡がった新型コロナウイルス感染症も、5月8日より5類感染症に引下げられ、ようやく従来のサッカー活動が再開できることとなり、関係者の皆様方も一安心されているのではないのでしょうか。ここ日本最北の宗谷地区でも、本来のサッカー活動が再開されようとしていますが、例外なく当地区も人口減少の煽りを受け、選手の減少により単独チームを組めない状況も増えています。併せて指導

者や審判員不足だけでなく、協会役員の担い手不足も慢性化しています。全道的にも同じ状況かと思われませんが、発足以来掲げている「日本のてっぺんを熱くする」を合言葉に、サッカーファミリーを一人でも増やしながら、当地区のサッカー熱を全道・全国へ発信していく1年となるよう、一丸となり盛り上げていきたいと思えます。